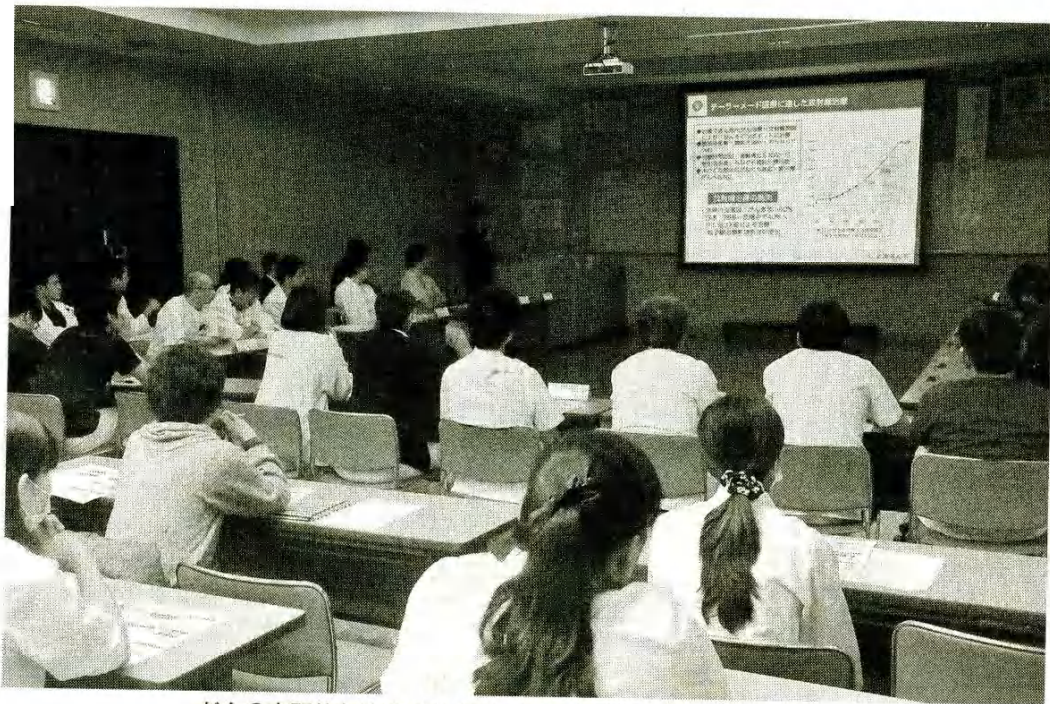


専門的がん治療法を



がんの専門的な治療法などについての情報を共有したセミナー

地域のがん専門医療人育成とがん医療のレベル向上を目的とした「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム『地域合同キャンサーボード・特別セミナー』」が昨年12月、室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院で開かれ、医師や看護師らが、がんの専門的な治療法に関わる知識を共有した。

(松岡秀宜)

製鉄記念 特別セミナー 室蘭病院

高度な知識、技術を共有

札幌医大、北海道大、旭川医大、北海道医療大で構成する「がんプロフェッショナル養成基盤推進ボード」の主催。がん医療の担い手となる高度な知識や技術を持った「がんに特化した医療人」の養成に向けて、地域医療に携わりながら、がんの専門教育を受けられるようにと道内の各医療機関で開いている。

セミナーには同病院の医師や看護師、薬剤師、放射線技師などの医療関係者約90人が出席。治療方針の意見交換や専門的な治療法などについて学んだ。

北大大学院医学研究科放射線治療医学分野の清水伸一特任准教授は、水素の原子核を真空中で加速した「陽子線」によるがん治療の長所や、今年3月に完成する道内初の施設「陽子線治療センター」などを解説。

清水准教授は、陽子線が持つ特性から、エックス線以上にがんの患部だけをピンポイントで狙って治療できるため、「大型のがん組織や動くがんの治療にも効果がある」「正常な細胞への影響が少ないため、患者負担の軽減も図ることができる」などと指摘。

その上で「小児への全脳全脊髄照射シミュレーションでも、放射線感受性が高い小児の正常組織を保護できる」とも話し、小児がんや子宮頸がん、前立腺がん、膀胱がん、食道がん、乳がん、肺がんなどが「適応できる代表的な疾患」も解説した。

また、今年3月のセンター完成によって、「がんの治療率向上、患者の副作用軽減にもつながる。最先端の検査や他の治療法を組み合わせた集学的な診療で、がん患者を救うことが実現できる」などと話した。